

長良高校の設立

長良高校は戦後の学制改革（小学区制導入）により、1949年（昭和24年）に普通科と商業科の併設高校として誕生しました。

設立当初、普通科は岐阜高校・加納高校から編入（転校）された生徒、商業科は岐阜商業からそのまま残った生徒により構成されていました。3期生までは、旧制学校の入学生で、4期生から長良高校の入学生でした。

1951年4月県立岐阜商業高校開校により、その年の長良高校商業科入学生は県立岐阜商業高校に移管され、本校2年生3年生は普通科・商業科併設、1952年度は3年生のみ商業科が併設されていました。1953年度より、普通科校として現在に至っています。第1期～5期までは併設期の卒業生で、第6期卒業生からは、普通科のみの生徒です。

なお野球部は高校設立と同時に発足しております。

校歌の歴史

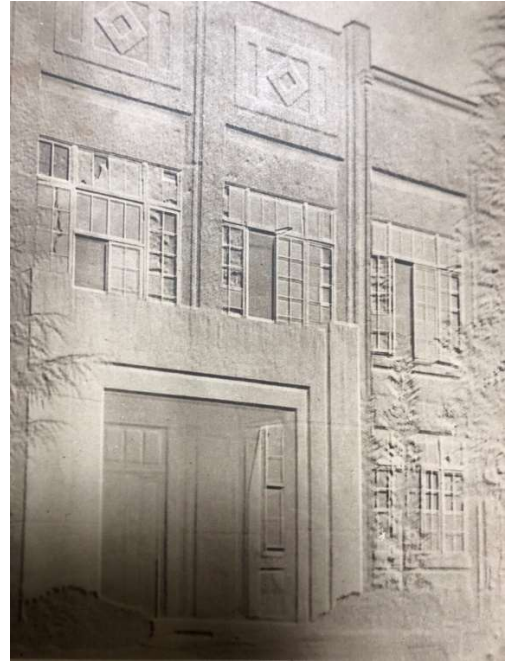
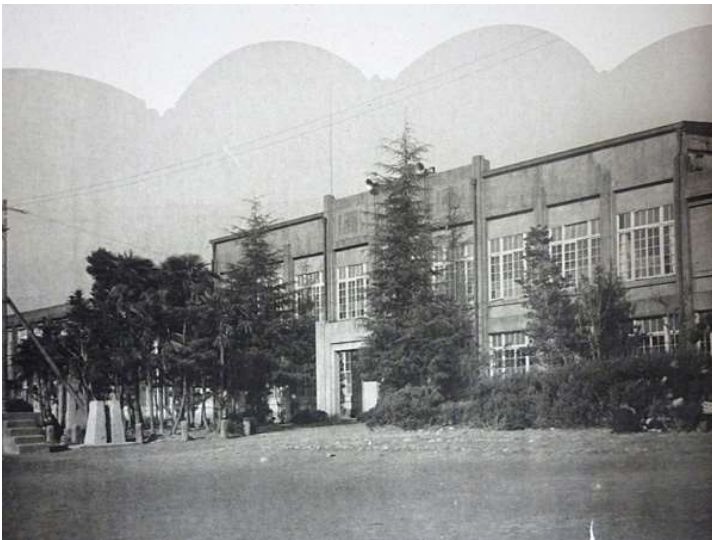
設立時は、岐阜商業の商業科を引き継いだ関係で、岐阜商業校歌をそのまま校歌としていました。1951年県岐阜商が開校し商業科が移管された際に、校歌は県岐阜商のものとなりました。県岐阜商の校歌には「…城北の地に聳え立つ我が学び舎を…」とありますが、まさにこの歌詞は今の本校の位置を指します。現在の本校校歌は、作詞；土岐善麿先生、作曲；信時潔先生により誕生し、1953年度10月19日（月）「校歌発表会」において初めて全校生徒に披露され、翌20日に制定されました。

校舎の歴史

長良高校設立時の校舎は、大正時代に建てられた廊下が広く天井が高いモダンな建物でした。まさに長良高校の象徴にふさわしい建造物でした。37期までの卒業生はこの校舎から巣立っていきましたが、建物の老朽化に伴い、1986年に解体され、現在の校舎は岐阜市に本社を置く株式会社市川工務店により新設されました。取り壊しの前には、新校舎建設反対の署名運動まで

起こるほど、旧校舎に愛着を持つ卒業生も大勢いました。そこで建築関係者からの提案により、旧校舎の南正面上部の「四角を3つ並べたデザイン（時計の周囲）」を象徴としてどこかに残そうということになり、新校舎の西側正面上部に同様のデザインが設置されました。

惜しまれながらその幕を下ろした旧校舎ですが、古参OBの心の中で高校野球の思い出とともに存在し続けるでしょう。



校訓の由来

長良高校二代目校長、伊藤喜一先生は「回想」の中で開校当時の長良高校を次のように回顧されています。

「『開拓者の気魄で勉学とスポーツにあたれ』これは着任後暫らくして私が生徒に示した教育目標の第一項目であります。創立日なお浅い本校では、今学びつつある生徒が開拓者となり先輩とならねばなりません。問題はどのようにして勉学とスポーツとを両立させるかであります。勿論正規の授業を懸命にさえやればいいのですが、当時の状況ではそれだけでは不十分です。夏冬の休暇中に補習授業をやっても未だ足らず、更に平日にも補習授業を必要としました。何時やるか。放課後ではスポーツの練習と交錯します。始めはこの両者の調整に苦しみましたが、結局先生方と協議した結果始業前の早朝にやるより外なしとなりました。（中略）早朝では教える先生も教えられる生徒達も並大抵の苦勞ではありませんでしたが、幸にも両者の非常な努力によっ

て補習授業はうまく展開されるようになりました。こうして全校挙げて勉学とスポーツに精進いたしました。」

新制長良高校には、幸か不幸か伝統がありませんでした。しかし、それを築いていくのは自分たちであるという気概が当時の生徒と職員とにはみなぎっていました。

歳月が流れ、先輩方の不断の努力によってこの校訓はまさに母校長良高校を象徴する素晴らしい伝統となり今日に至っています。